

I P M実践指標モデル（なし）

分類	管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄			
					昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	防風ネット等の整備（必）	ほ場周辺には、防風ネット等を設置し、強風による病害の蔓延を防止する。	1				
		せん定（必）	せん定時に病斑のある枝、枯れ枝などを除去する。せん定クズはすみやかにほ場外に持ち出して処分する。	1				
		芽かき	春先に芽かきをし、通風・日当たりをよくする。	1				
		敷きわら、草生栽培	敷きわらまたは草生栽培により、雑草の繁茂や降雨による泥のはねあがりを防ぐとともに、疫病を予防する。	1				
		堆肥	粗大有機物の施用は白紋羽病の発生を助長するのを行わない。	1				
		赤星病中間宿主植物の除去（必）	ビャクシン類は赤星病の中間宿主となるので、ほ場の近くにある場合は除去する。	1				
判断	タイムリ	病害虫発生予察情報の確認（必）	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入力確認する。	1				
	防除要否の判断	気象情報の把握	気象情報に留意し、適期防除を行ない、散布後の降雨による薬剤の流亡などがないようにする。	1				
	判断	観察	ほ場にはルーベを持って入り、果樹園と周辺の病害虫や雑草の状況（種類、発生量など）を観察、把握する。	1				
防除	耕種的防除	黒斑病	耐病性品種の利用	黒斑病耐病性品種を選択する。	1			
		生物的防除	ハマキムシ類、シンクイムシ類	性フェロモン剤の使用	性フェロモン剤を導入する	2		
			ハダニ類	草生栽培	ナギナタガヤ等の草生栽培によりカブリダニの生息場所を確保する。	1		
	物理的防除	輪紋病	いぼ皮の除去	せん定時に、枝のいぼを削り取るか、枝ごと除去し、ほ場外に持ち出して処分する。	1			
		黒星病、うどんこ病	枯れ葉の除去	枯れ葉は翌年の感染源となるので、11月頃まとめてほ場外に持ち出して処分する。	1			
		輪紋病、ヤガ類、カメムシ類、シンクイムシ類	袋かけまたは防虫ネット	袋かけ栽培もしくは防虫ネット被覆を行う。袋かけは6月中旬までに行う。	1			
		ヤガ類、カメムシ類	黄色蛍光灯の使用	果実の成熟期には（袋かけと併用して）夜間黄色蛍光灯を使用する（但し、クサガカメムシでは逆効果となることがあるので注意）。	1			
		ヤガ類	腐熟果の除去	園内の落下果実や樹上の腐熟果を除去し、ほ場外に持ち出して処分する。	1			
		カイガラムシ類、シンクイムシ類、ハダニ類	バンド誘殺	夏季に幹に粗布を巻き越冬卵を産む成虫を誘引し、冬季に処分する。	1			
			粗皮削り	晩秋に粗皮を削り、越冬場所を減らす。	1			
	化学的防除	農薬の使用全般（共通）（必）		十分な薬効が得られる範囲で、最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定する（薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する）。	1			
		薬剤の選択	農薬を使用する場合には、特定の成分のみを繰り返し使用せず、農業工業会が提供している作用機による農薬の分類（IRAC、FRAC）を確認する。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は当該地域では使用しない。		1			
		散布方法	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。防除は早朝か夕方の無～弱風時を選んで行う。病害の種類によっては棚上の徒長枝まで薬剤がかかるように行う。		1			
		散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。		1			
その他	作業日誌（必）		各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、使用した農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のI P Mに係わる栽培管理状況作業日誌として別途記録する。	1				
	研修会等への参加		県や農業協同組合が開催するI P M研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業者等へ周知し、情報共有する。	1				
				合計点数				
				評価結果				

*（必）と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。